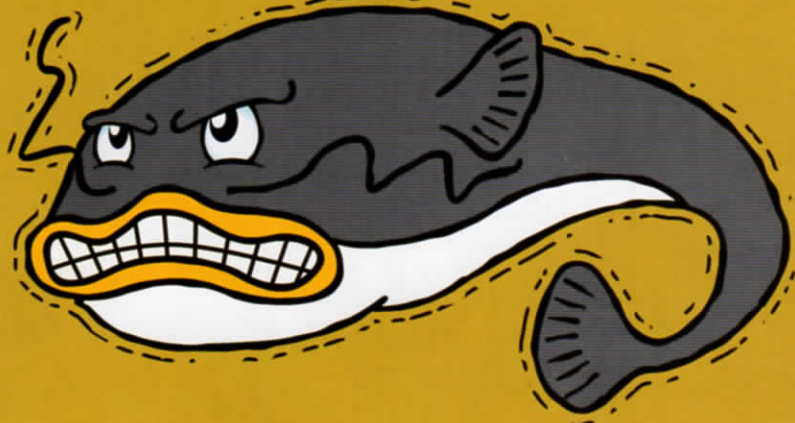


～宮城県沖地震に備えて～

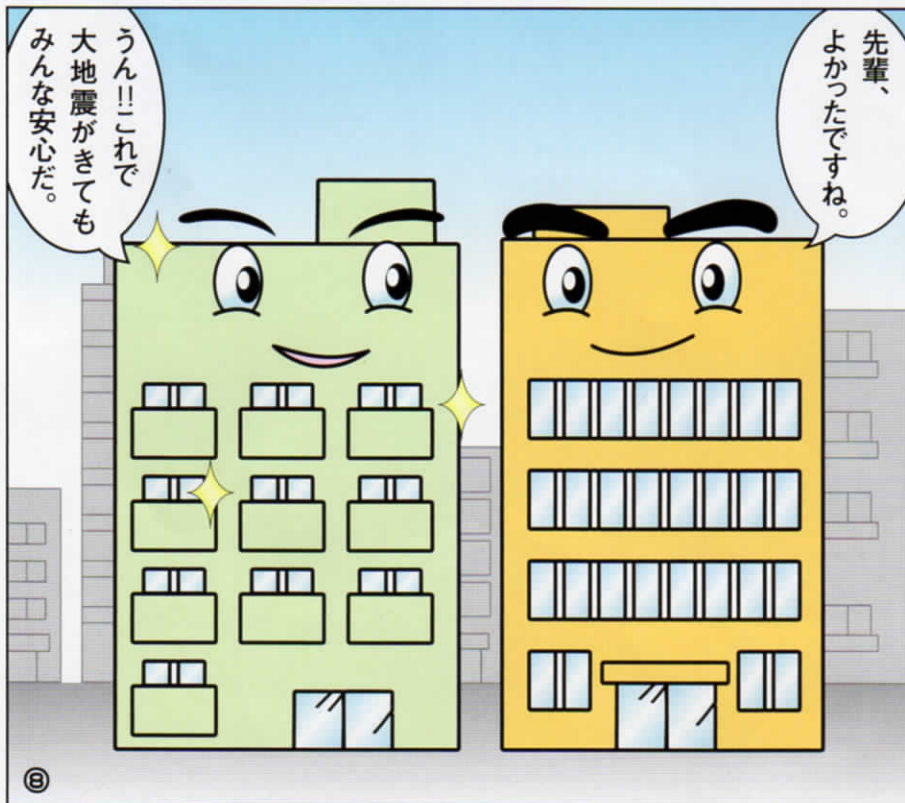
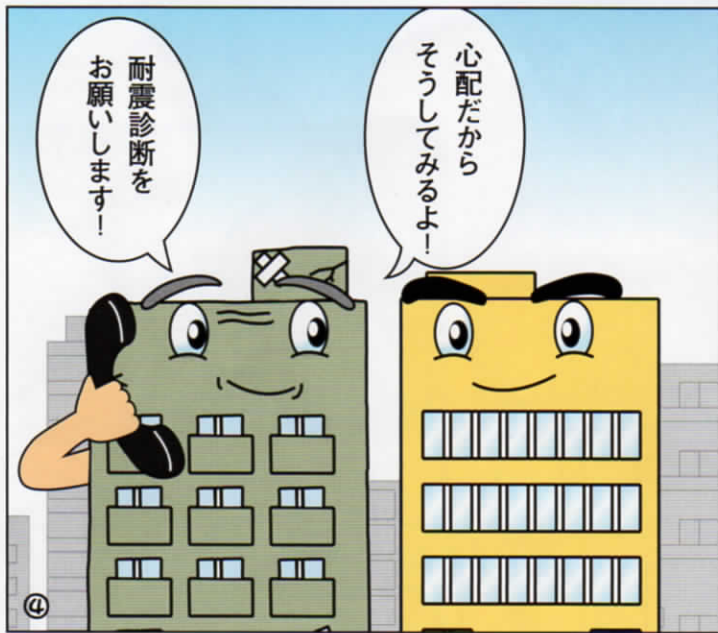
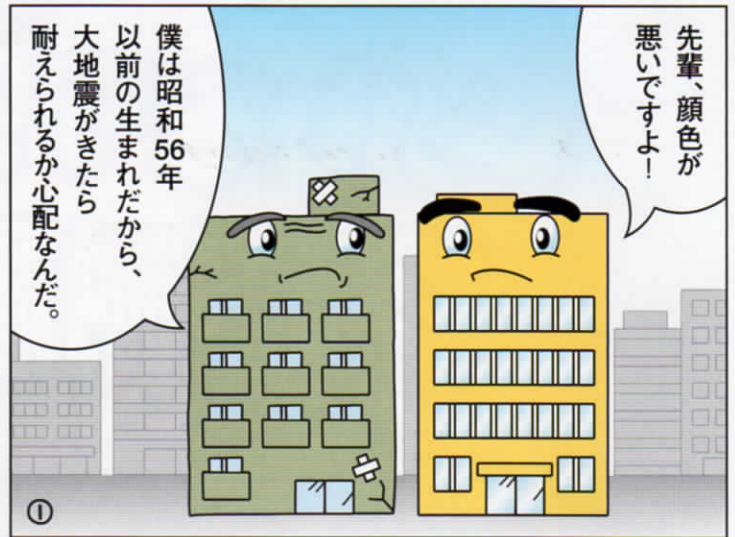
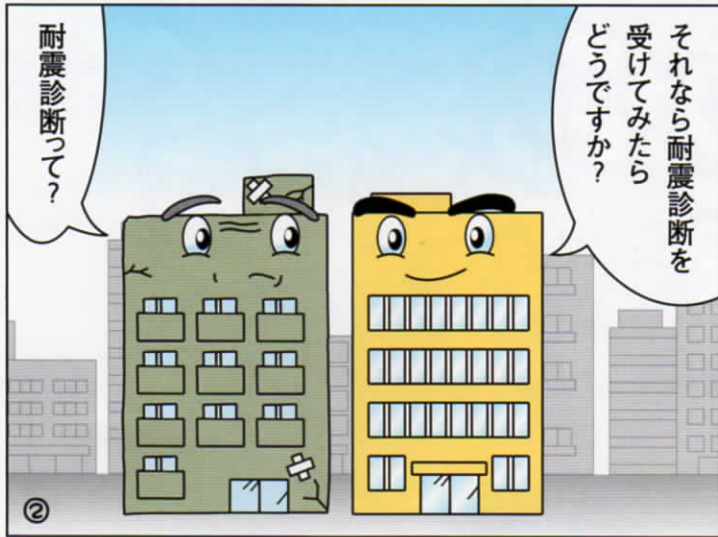
ビルを守り、命を守る

耐震診断・耐震改修のススメ



仙台市

耐震診断って何?の巻



宮城県沖地震が再来する確率は非常に高いといわれています。

平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災では、多数の建築物が被害を受け、多くの貴重な人命や財産が失われました。

死亡者の大多数は、建築物の倒壊等による圧死とされています。特に、現行の耐震基準に適合しない建築物（昭和56年5月31日以前の建築基準法による建築確認を受けて建築されたもの）は、多くの被害を受けました。



■被害状況の事例

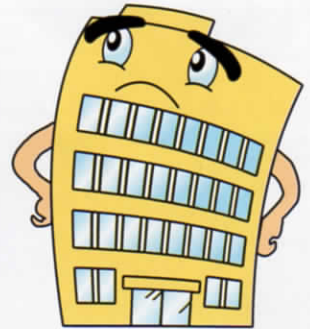
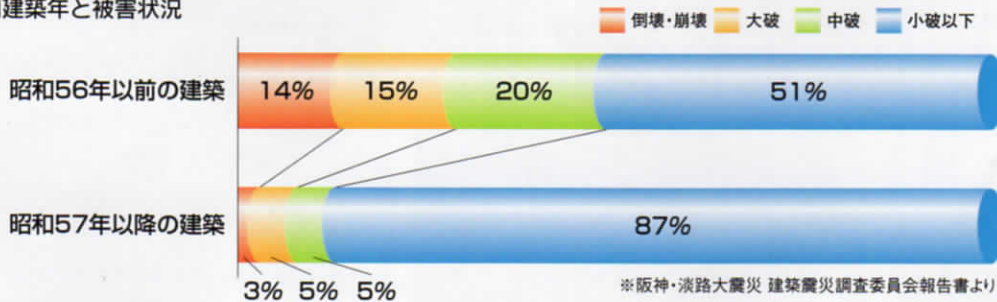


地震により中間層が破壊しています。



地震により外壁が崩落しています。

■建築年と被害状況



次のような建物は、耐震診断をしましょう。

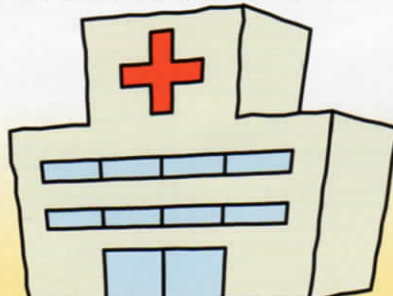
建築時期が...

- 昭和56年（1981）以前の建築物
- 老朽化が著しい建築物



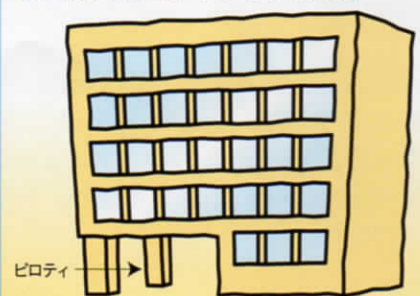
建築物の用途が...

- 多数の者が利用する建築物（病院、映画館、店舗、ホテルなど）



建築物の形状が...

- 1階がピロティの建築物
- 壁配置のバランスが悪い建築物



建築物の倒壊の例と改修方法には次のようなものがあります。

大地震時の建物倒壊を防ぎ、地震被害を軽減するための改修方法を提案します。できることから実行しましょう。

提案① 弱い柱(主に1階柱など)を補強しよう。

昭和56年以前の鉄筋コンクリート柱は弱いため、大地震時には写真のように柱が破壊し、建物が倒壊する原因になります。



例① 倒壊した建物

このようにならないために



●カーボン繊維補強
柱一本の補強費用
60~90万



●SRF繊維補強
柱一本の補強費用
40~50万

提案② 弱い柱を補強し、地震に強い壁も増やそう。

壁の少ない建物や、壁配置のバランスが悪い建物は地震の被害も甚大になります。



例② 建物の甚大な被害

このようにならないために



●コンクリート壁補強
一箇所の補強費用150~200万



●鉄骨ブレース補強
一箇所の補強費用150~250万

提案③ 落下の危険性のある付属物を点検しよう。

屋上にある水槽や煙突、外壁に取り付けられた看板などは、大地震時に落下し尊い人命を奪う恐れがあります。また、外壁のタイルや仕上げも老朽化により剥離し落下することもあります。



※改修費用等は参考数値ですので、詳しくは建築設計事務所協会へお問い合わせ下さい。

耐震診断・耐震改修に関するお問い合わせは

■(社)宮城県建築設計事務所協会

〒980-0802 仙台市青葉区二日町6-6 シャンポール青葉2F 022(223)7330 <http://www.miyajikyo.or.jp>

相談窓口

■青葉区建設部街並み形成課 代表022(225)7211

■太白区建設部街並み形成課 代表022(247)1111

■宮城野区建設部街並み形成課 代表022(291)2111

■泉区建設部街並み形成課 代表022(372)3111

■若林区建設部街並み形成課 代表022(282)1111

■都市整備局住環境部建築指導課 代表022(261)1111